



大久保 和孝
大久保アソシエイツ
取締役社長

人生の転機 先達から学ぶ 本質を探ることの大切さ

この写真は私のお守りです。2004年東洋経済のCSR特集号で経済同友会元代表幹事の小林陽太郎さんと対談した時の写真です。小林さんとは曾祖父の時代から家族ぐるみのお付き合いがあり、特に祖父(故木戸孝彦、弁護士)は35年にわたり富士ゼロックスの社外取締役役に就任していました。

この対談がきっかけとなり経済同友会へ入会しました。最年少での入会でしたが、小林さんが祖父の勧めで経済同友会に入会したことをお聞きし、ご縁を感じました。

監査法人に入所した1995年当時は大和銀行ニューヨーク支店巨額損失事件をはじめ歴史に残る企業不祥事が相次ぎ、新人ながら会計監査の矛盾と限界を感じました。企業理念や組織風土への理解が不可欠と考え、CSRのISO規格化の議論が進む中、企業ガバナンスについて日本発の国際規格化を目指し、1999年麗澤大学高巖教授らと共に「倫理法令遵守マネジ

メントシステム(ECS2000)」の規格作りへの参画を契機に、2003年新日本監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)の子会社として、当時の理事長の後押しもあり業界初のCSR、コンプライアンスを専門としたコンサルティング会社を設立しました。設立当初から小林さんに相談にのっていただきました。

「常にステークホルダーを考えバランスをとる」「持続している企業はCSRの本質を理解し実践している」そして「個人も企業も、最後は誠実さ・倫理感が全て」。小林さんの言葉は私の原点であり、企業経営の基礎を教えていただきました。

その後も、悩んだときはいつも真摯なアドバイスをいただきました。紹介いただいた日本アスペン研究所ではリベラルアーツの重要性を学び、福澤諭吉記念文明塾(慶應義塾創立150周年記念事業)の設立にもご尽力をいただきました。

今の私はこうした中での出会いとご縁に支えられています。

